

京都を訪ねた昨年のこと、府立総合資料館の幾重もの扉を鍵で開けた向うの、玩具保存庫で、日本各地の郷土玩具を眼のあたりにすることができました。石沢誠司氏は、私どもを案内して下さった玩具部門の専門員で、その折、約した依頼が実り、今号の掲載となったのです。

郷土玩具のうち、私どもは、伏見人形の魅力に吸い寄せられていきました。学業成就をかなえる牛乗り天神、火防せの神であり、安産の守護もする布袋、子ども湿疹・クサを食べてくれる牛、夜泣きをとめる鳩、子どもが亡くなった時、埋葬に用いる友引き人形、デンポ・ツポツポと呼ばれる器類……、どれもこれも呪術的な魔力を秘めた土人形でした。

さて、旅の終りに、五色の楓を観るべく泉涌寺へ足を向け、塔頭廻りをしていた時のこと、伏見人形とは、このように使われていたのかと、まさざと眼にとびこんできた光景があります。七福神の

一つ布袋をまつるその塔頭では、安産祈願を司どり、岩田帯を授け、井戸から独沽水を汲みあげます。そして椎の実がこぼれる境内の一角には石船があり、そこには、安産の願がこめられた伏見人形の布袋たちが、たくさん堆く、積みあげられていたのです。色もはげ落ちた古い布袋たちは、にこやかに笑っていました。どれだけの京童をこの世に連れ来たったことでしょう。

布袋は、九世紀から十世紀頃の中国の僧で、位や名声を望まず、生涯、杖と袋で、放浪生活を送りました。日本では、布袋は唐子と取り合わされ、絵画に頻繁に登場してきますが、袋の中から、子どもたちがワアッと出てくる図像など、布袋は子ども宇宙を支える主管者の如き趣きがあります。大きな腹をした、のどかな布袋は、どこか狸にも似ています。狸は徳利とお通い、手にして、子どもとは遊んでくれそうにありません。(美)

## 幼児の教育 第八十三巻 第五号

五月号 ㊦

定価三〇〇円

昭和五十九年 四月二十五日 印刷  
昭和五十九年 五月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子  
発行人

東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一―一九六四〇番

●本紙御購読についての御注文は発売所  
所 フレーベル館にお願いいたします